

I. 調査の実施概要

1. 調査の概要

①調査目的

府民が生涯にわたりスポーツライフを楽しめるよう、今後のスポーツ施策の充実を図るための基礎資料とすることを目的に、府民のスポーツ実施状況に関する意識と実態についての調査を実施した。

②調査期間

平成29年11月20日（月）～平成29年12月7日（木）

③調査設計

表 1 調査設計

調査地域	京都府内全域
調査対象	府内在住の18歳以上の男女・個人
標本数	3,000人
抽出台帳	選挙人名簿
抽出方法	層化二段無作為抽出法（府内市(区)町村別）

④調査方法

郵送法（督促1回）、無記名方式

⑤調査機関

株式会社 地域未来研究所

⑥調査項目

- 健康や体力に関することについて
- 運動やスポーツに関することについて
- スポーツ施設に関することについて
- 地域のスポーツ振興に関することについて
- 障害者スポーツに関することについて
- ワールド・マスターズ・ゲームズに関することについて

2. 標本構成と回収結果

①層化

府内の市(区)町村と地域区分は以下のとおり。

表 2 府内の市(区)町村と地域区分

地域区分	市(区)町村名
京都市	京都市（北区、上京区、左京区、中京区、東山区、山科区、下京区、南区、右京区、西京区、伏見区）
乙訓・山城	向日市、長岡京市、大山崎町、宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村
南丹	亀岡市、南丹市、京丹波町
中丹	綾部市、福知山市、舞鶴市
丹後	宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町

②標本数の配分標本抽出計画と集計母数（集計対象数）

今回の調査では、標本数（アンケート送付数）を府内36市区町村の母集団構成比（人口比率 ※平成27年10月末現在の国勢調査人口（18歳以上）に基づく）に応じて配分した。

有効回答数は1,249件、有効回収率は全体で41.6%となった。

表 3 標本抽出計画と集計母数

	標本抽出計画				有効回答		
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比	有効回収率
京都市	1,230,770	56.7 %	1,701	56.7 %	646	51.7 %	38.0 %
乙訓・山城	579,504	26.7 %	801	26.7 %	347	27.8 %	43.3 %
南丹	114,623	5.3 %	158	5.3 %	78	6.2 %	49.4 %
中丹	162,936	7.5 %	226	7.5 %	117	9.4 %	51.8 %
丹後	82,677	3.8 %	114	3.8 %	56	4.5 %	49.1 %
不明・無回答	-	-	-	-	5	0.4 %	-
合計	2,170,510	100.0 %	3,000	100.0 %	1,249	100.0 %	41.6 %

3. 報告書の見方

①標本誤差

本調査は、調査対象となる母集団（京都府内在住の18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の回答比率等から母集団の意識や課題、要望を推定する、いわゆる「標本調査」である。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

世論調査では、信頼度95%（同じ調査で標本（調査対象）を変えて行った場合、100回中95回までは同様の結果が得られる（5回程度は異なる結果が出ることは許容される）と考えてもよい）の水準を求めるのが一般的とされている。

標本誤差は、次式で統計学的に得られる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N=2,170,510
 [母集団=京都府内の18歳以上人口]
 n=1,294 [標本数(有効回答数)]
 P=回答の比率(%)

上記の式に必要な数値をあてはめて計算した今回調査の標本誤差は、以下のとおり。

表 4 今回調査の標本誤差

回答の比率	90%	80%	70%	60%	50%
	10%	20%	30%	40%	
誤差	±1.66	±2.22	±2.54	±2.72	±2.77

（この表の計算式の信頼度は95%である）

※表4の見方:ある設問で、全体の回答が『50%』であった場合、50%を中心に±2.77、つまり、真の値は『47.23%~52.77%』の間にあると推定してよいが、その推定が正しい確率は95%である。

②報告書記載事項について

- 比率はすべて、各設問の不明・無回答を含む集計対象者数（副問では当該設問回答対象者数）に対する百分率（%）を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問（複数回答設問）では、百分率（%）の合計は、100.0%を超える場合がある。
- 百分率（%）は小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示した。1つだけ回答を求める設問（単数回答設問）では、四捨五入の関係上各選択肢の百分率（%）の合計が100.0%にならない場合がある。また、2つ以上の選択肢を集約した場合（「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合計した『健康』など）は、該当選択肢の回答数の合計から割合を算出しているため、グラフに示した選択肢ごとに算出した割合の合計と一致しない場合がある。
- 図表中の「N」は集計対象者数（あるいは、分類別の該当対象者数）を示し、各選択肢の回答比率は「N」を集計母数として算出した。また、図表中の「n」は当該選択肢の回答者数を示す。
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を簡略化している場合がある。
- 図表中の「不明・無回答」は、回答の判別が著しく困難であったもの、あるいは回答が示されていないなかったものである。
- 性別、年齢別、職業別等のクロス集計については、「その他」と「不明・無回答」を除いて示しているため、それぞれの「n」の合計が「N」とは一致しない場合がある。また、設問間のクロス集計については、「不明・無回答」及び「わからない」を除いて示している。